

わが国最古の動物施療施設か 僧医忍性の“馬病屋”

亀谷 勉¹

はじめに

わが国の動物施療施設については、養老律令¹⁾、厩牧令の馬医制度、徳川綱吉の馬病厩および犬小屋²⁾などの記述があるが、複数の患畜を収容して施療した最古のものとして、ここでは“極楽寺坂下馬病屋”を取り上げたい。



図1 極楽寺境内絵図(中央図)

KAMEYA Tsutomu : “Babyo-ya” Established by Priest Ninsho, Considered the Oldest Animal Hospital in Japan

1. 日本獣医史学会監事 連絡先：亀谷 勉 〒273-0122 千葉県鎌ヶ谷市初富4-2-59
(2011年10月10日受付・2011年10月25日受理)

極楽寺境内絵図の“坂下馬病屋”

元亨二(1322)年の裏書のある『極楽寺境内絵図』³⁾(図1及び図2)には、“坂下馬病屋”が明瞭に描かれていて、永仁六(1298)年、僧医忍性により、鎌倉の極楽寺坂下に馬病屋が建立されたと記載されている。⁴⁾

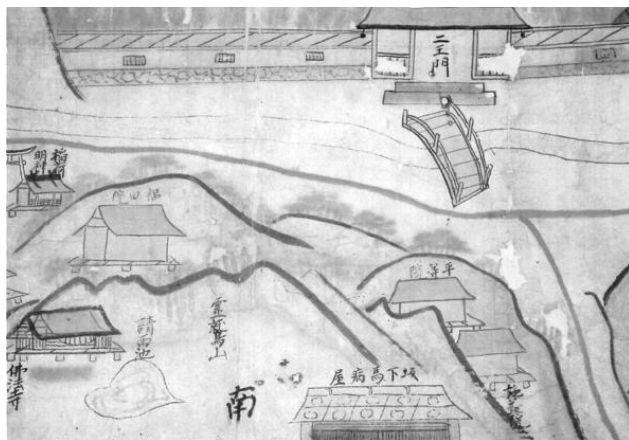


図2 極楽寺境内絵図南部
(「南」の文字右側の建物が“坂下馬病屋”)

極楽寺

極楽寺は真言律宗の北条家の菩提寺で、正元元(1259)年、北条重時の相談に与かった僧忍性が移転再興した。盛時には七堂伽藍をはじめ49院・12社を具備した、すこぶる宏大な寺院であったことが、伽藍古図から推量される。⁵⁾



図3 忍性座像(極楽寺所蔵)



図4 忍性墓(極楽寺境内)

その後、幾度もの震災、火災などに遭遇して衰微したが、後醍醐天皇の祈願所として寺領が安堵されて以後、歴代権力によって保護され、寺宝として重要文化財指定の釈迦如来立像・同座像などのほか、僧医忍性座像(図3)、境内の山腹にある4メートルの巨大な五輪の忍性塔(図4)は、往時の極楽寺を偲ばせている。

忍性の生い立ちと僧医としての活躍

忍性は建保五(1217)年、大和国城下郡屏風里(奈良県磯城郡三宅村屏風)生まれで、母方には橘氏の血が流れているとされ、母の勧めで仏教に帰依し、叡尊との機縁で出家し、45歳で鎌倉入りして精力的な活動を始めることとなる。⁴⁾ 57歳で十種大願を立て、衆生のうち悪行にひかれるものあらば、われひとりの罪として、衆生に代わって苦しみを受けようというもので、具体的には病気でない限り輿や馬にのらない。乞食、病者、路頭に捨てられた牛馬などに憐れみをかける。難所に道を造り、水路に橋を渡し、井戸を掘り、山野に薬草、植樹、一分も我が身にとどめず十方界の衆生に施与する誓願である。^{6,7)}

弘安六(1283)年の疫病の流行には、施薬院、悲田院、療病舎、敬田院、福田院、癩病舎、薬湯寮など機能的医療施設を作り、その運営資金として幕府は、土佐国大忍荘(高知県香美郡旧大忍郷)の荘園を充当した。現在も極楽寺境内に残る巨大な石鉢と石臼(図5)は、生薬として杏仁、甘草、丁子、茯苓、胡椒、山椒、白檀、沈香、桂心などの製剤に当てられたとされるもので、極楽寺における医僧技術は当時の官医より実力を高く評価されていたという。⁸⁾



図5 巨大な石鉢と石臼

忍性の“馬病屋”建立

忍性の医療活動は、永仁六(1298)年、極楽寺の坂下に“馬病屋”を建てるまでに進展した。⁴⁻⁹⁾ 当時の馬は東国武士の機動力の源泉であるが、その医療施術については『馬医草紙』¹⁰⁾などから類推するほかない。いきものにも平等な医療をとの僧医忍性の慈悲の精神は、馬にも差別なく、82歳の老躯で馬病屋を何時も訪れては馬のために祈り、薬を与えた。ながい鼻面をなでながら、人に話すように声をかけ、光明真言の経文(図6)を頰に張り、誦じ、平癒を祈ったとされる。⁶⁻⁹⁾

『極楽寺縁起』¹¹⁾によれば、「坂下馬病屋で施療されていた病牛馬数は一千有余疋也」とあり、また、20年間に施療した人数は、数万人と記録されている。

僧医忍性は嘉元元(1303)年、87歳で極楽寺で没した。後醍醐天皇から忍性菩薩の号を贈られ、人々からは医王如来と称されている。¹²⁾

むすび

忍性については、本会の『日本獣医学人名事典』¹³⁾にも紹介されているが、忍性の救療精神が、動物愛護として馬にまで徹底をみたのは、鎌倉幕府為政者の施策の弱点について取り入り、その庇護のもとに、武士の注目を集める手立てとしたのではないかとする厳しい見解¹⁴⁾もあるが、今回は、蒐集できた史料をもとに“極楽寺坂下馬病屋”を、わが国最古の動物施療施設として推論した。

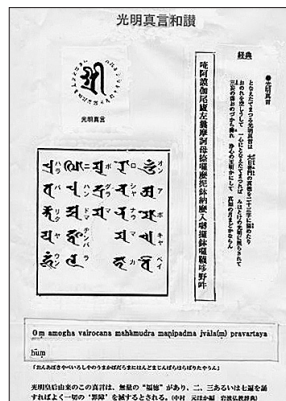


図6 光明真言の経文

参考文献

- 1) 鈴木建夫：竹内理三先生喜寿記念論文集刊行会編、律令制と古代社会、古代馬の疾病と馬医について、110-130(昭和59年)
- 2) 白井恒三郎：日本獣醫學史、犬醫師、165-172(昭和19年)
- 3) 極楽寺境内絵図：極楽寺所蔵、元亨二(1322)年の裏書あり
- 4) 極楽寺二十一世住職、真山房敵盈：「相陽極楽寺開山忍性菩薩略行記」、明和二(1765)年
- 5) 山岡 明：「物語 馬のいる歴史風景」57-62、新人物往来社(1968)
- 6) 「忍性菩薩十種大願」仁和寺南勝院所蔵、極楽寺史料抄、中世鎌倉研究会(2006)
- 7) 和島芳男：「叡尊・忍性」124-125、吉川弘文館(昭和34年)
- 8) 吉村良司：「鎌倉忍性塔由来」極楽寺医学、139-141、北羊社(昭和47年)
- 9) 山岡 明：「物語 馬のいる歴史風景」57-62、新人物往来社(1968)
- 10) 松尾信一：日本馬病史—古代より幕末・維新前後まで—日本獣医学雑誌 42号(2005)
- 11) 石井 進：「石井進著作集」第九卷、96-98、岩波書店(2005)
- 12) 和島芳男：「図説日本文化史体系 第六卷」旧仏教の復興、193-196、小学館(1966)
- 13) 松尾信一：「日本獣医学人名事典」忍性、120-121(平成19年)
- 14) 吉田文夫：「重源 叡尊 忍性」忍性の社会事業について、422、吉川弘文館(1983)